

# 異界から人間を覗く

## —妖怪から見た人間社会—

求 源 Qiu Yuan

### 研究概要

日中の妖怪文化に関心を持って以来、日本に比べて中国妖怪文化の図像化と現代メディアでの表現が少ないという現状に気づき、中国神話の重要な基礎資料『山海経』を現代メディアに再現することを考え始めた。妖怪文化を探究しつつ、妖怪文化の発生と発展は広範な社会文化の変化を反映していることを発見した。本研究は日中文化の中間者として感じた不思議な社会現況を、妖怪の世界を借りることで比喩により表すことを試みた。

「妖怪と人間はそれぞれ、世界に対して異なるビジョンを持っており、妖怪の視点から社会問題を見れば人間は荒唐なところがある」という仮説を立て、私が創造した、妖怪の世界を立ち上げたいと思う。具体的には、妖怪の世界観と社会問題の考えを元にして、架空の妖怪テレビで放送される妖怪と人間のニュースをアニメーション作品として制作した。また、妖怪によって作られる「秋田妖怪週報」の制作も行った。

一言で言えば世界情勢や文化、妖怪と人間という視点・考察をアニメーションや新聞というメディアで複合的に展開したものである。

### 修了制作「妖怪テレビ」

#### (1) 構想

「秋田妖怪新聞」というプロジェクトの実践を踏まえて、「妖怪テレビ」の構想が立てられた。人間の次元と妖怪の次元が、秘密の通路によって繋がれている平行世界である。妖怪たちは人間の世界における様々な出来事を窺っているが、人間の方は妖怪の存在にあ

まり気付かない。妖怪は人間より数が少ないし、科学技術の発展も遅れているが、彼らは妖怪なりの異能を持っている。そして、自分自身を保つために、彼らは自らの存在を秘匿している。

#### (2) 内容

「妖怪テレビ」はおよそ7分間の2DCGアニメーションによる映像作品である。

妖怪テレビを見ているナマハゲは、インタビュー番組に登場する中華妖怪の五鬼たち（ナマハゲの由来の一つとされている）から肖像権侵害について訴えられて、謝罪を要求された。ナマハゲは謝罪するつもりはないが、世論の力に負けてしまう。和国の外務省大臣子泣き爺からアドバイスもらったナマハゲは密かに謝罪屋に自分の代わりに謝罪することを頼んだ。しかし謝罪代行がばれてしまって、子泣き爺はそれに対しても謝罪しなければなくなった。中国では、日本が戦争で被害を受けたアジア諸国に対して公式に謝罪してなくて、具体的な犯行を認めていないという世論が働いている。だが、日本にきてから、そのようなことが完全に事実であるかとも考えるようになってきた。国を問わず、マスメディアそのものは、しばしば政府に踊らされているのではないだろうか。報道の内容は巧妙に先導する権力者によって左右されているのではないだろうか。人がいれば、利益の差異が必ず生まれて、立場が分かるといふことである。いわゆる事実が本当の事実であるかどうかという問題は、結局正解がない「藪の中」になっている。



1994年生まれ中国浙江省出身。2016年中国美术学院メディアアート学部卒業。中国古代の神話『山海経（せんがいきょう）』の図像化を研究テーマにこの大学院を選んだ。アニメーション、Web、イラスト、写真など、と複合な手法を用いて作品を制作し「異界から人間を覗く」独自の世界観を立ち上げたいと思う。私が日中文化の中間者として感じた不思議な社会状況を、妖怪の世界観を借りて隠喩することが研究の軸になるかもしれない。



「妖界テレビ」  
2020年  
映像、イラストレーション  
紙など